

2 0 1 7 年度

事 業 報 告 書

自 2 0 1 7 年 4 月 1 日

至 2 0 1 8 年 3 月 3 1 日

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター

目 次

I. 法人の概況	2
II. 管理事業	3
1. 役員及び評議員	3
2. 専門委員(学生委員会)	3
3. 会議	3
4. 規程の制定等	5
5. 届出・登記事項	6
6. 事務局	6
III. 事業の実施状況	7
【公益目的事業】	7
1. Gakuvo Style Fund	7
2. 大学等連携ボランティア関連講座	13
3. 学生ボランティア派遣	26
4. セミナー/シンポジウム	33
5. インターンプログラム	35
6. 教育活動支援	37
【その他センターの目的達成に必要な事業】	
1. 情報発信事業	38
2017年度事業報告における附属明細書	44

I. 法人の概況

1. 設立年月日 2015 年 3 月 11 日

2016 年 12 月 15 日付けで公益認定申請書を提出し、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成 18 年法律第 49 条）の規定に基づき、2017 年 6 月 1 日に認定を受け、公益財団法人となった。

2. 定款に定める目的

この法人は、夢を描くことが最大の社会貢献となる若い学生の力を活かすため、学生ボランティア活動の支援を通じて、時代の一步先を目指す次世代を担う人材を育成するとともに、本邦及び海外の学生が行う公益活動への情報提供やサポートを行うことで、国内外の公益活動の活性化に寄与し、もって青少年の健全な育成と市民活動が日常となるより良い社会の形成に資することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 学生ボランティア活動の支援
 - (2) 学生ボランティア活動を促進するための機会提供
 - (3) 学生ボランティア活動に関する情報の収集・発信
 - (4) 学生ボランティアのスキルアップ推進
 - (5) 学生ボランティアのネットワーク構築・運営
 - (6) 各種刊行物等の販売
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 各号の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

4. 所在地 東京都港区虎ノ門 1-11-2（日本財団第二ビル）

5. 基本財産の額

取得価額	時価評価額	差異
3,000,000	3,000,000	0

6. 行政庁 内閣府

7. 役員に関する事項

II. 管理業務の 1. 役員（理事・監事）及び評議員を参照

8. 職員に関する事項

II. 管理業務の 6. 事務局を参照

II. 管理業務

1. 役員（理事・監事）及び評議員

(1) 役員

2018年3月31日現在の役員は、別表1「役員名簿」(39頁)のとおり、理事11名（会長1名、常務理事2名、理事8名）、監事2名である。

役員の移動は、監事の渡邊一利氏より、退任の意向があり、6月5日付けで退任となり、同日6月5日付けで、鈴木浩司氏が監事に就任した。

(2) 評議員

2018年3月31日現在の評議員は、別表2「評議員名簿」(40頁)のとおり、5名である。

2. 学生委員

第10回理事会で選任された学生委員は、別表3「学生委員名簿」(41頁)のとおり6名である。

3. 会議

(1) 理事会

① 第9回理事会

ア. 時 期：2017年4月12日（水） 書面決議

イ. 方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する
同法第96条の規定に基づく決議の省略に基づく理事会

ウ. 決議事項：

第1号議案 定款変更

第2号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程変更

② 第10回理事会

ア. 時 期：2017年5月23日（火）

イ. 場 所：日本財団ビル役員会議室

ウ. 決議事項：

第1号議案 2016年度決算および事業報告の承認

第2号議案 各種規程の変更

第3号議案 学生委員会委員の選出

第4号議案 定時評議員会 招集の決定

第5号議案 その他

③ 第 11 回理事会

ア. 時 期：2017 年 6 月 4 日（日） 書面決議

イ. 方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 197 条において準用する
同法第 96 条の規定に基づく決議の省略に基づく理事会

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 事業計画の変更

第 2 号議案 収支予算書について

第 3 号議案 資金調達及び設備投資の見込みについて

④ 第 12 回理事会

ア. 時 期：2018 年 3 月 6 日（火）

イ. 場 所：日本財団ビル第 8 会議室

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 2018 年度事業計画及び予算について

第 2 号議案 その他固定資産の取得について

(2) 評議員会

① 第 5 回評議員会

ア. 時 期：2017 年 4 月 14 日（金） 書面決議

イ. 方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 194 条第 1 項の規定に基
づく評議員会

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 定款変更 承認の件

第 2 号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程変更 承認の件

② 第 6 回評議員会

ア. 時 期：2017 年 6 月 5 日（月）

イ. 場 所：日本財団ビル役員会議室

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 議長の選任

第 2 号議案 2016 年度決算および事業報告の承認

第 3 号議案 監事の選任

第 4 号議案 代表理事の退職に伴う退職慰労金支給係数の決定

(3) 学生委員会

学生ボランティア支援に際し、不可欠なのは学生自身の視点である。その視点から学生
ボランティアのニーズを吸い上げる目的で、第三期学生委員会を発足させた。委員は、

センター実習生、留学生、ボランティアに精通している者、センターのプログラム参加者、大学ボランティアセンター学生スタッフかつ地方大学在籍者の6名が選任された。

委員会を4回開催し、第12回理事会においては、センター事業に対して委員会での検討をもとに提案をまとめた報告書を提出した。

① 第1回学生委員会

ア. 時 期：2017年6月18日（日）

イ. 場 所：センター会議室

ウ. 議 題：a. 委員へのセンター設立趣旨・事業概要説明と質疑応答
b. 各委員より自身のボランティア活動についての説明と質疑応答
c. 2017年度で扱う討議事項の検討

② 第2回学生委員会

ア. 時 期：2017年8月17日（木）

イ. 場 所：センター会議室

ウ. 議 題：a. センター事業についての意見交換
b. センター事業への提案を検討

③ 第3回学生委員会

ア. 時 期：2017年11月18日（日）

イ. 場 所：東北大学川内キャンパス

ウ. 議 題：a. 委員やオブザーバーに共通する活動の悩み・課題について意見交換
b. 首都圏以外の学生・学生団体へのセンターによる支援事業について意見交換
c. せんだい3.11メモリアル交流館見学
d. 委員と東北大学ボランティア団体との情報交換会

④ 第4回学生委員会

ア. 時 期：2018年2月23日（金）

イ. 場 所：センター会議室

ウ. 議 題：a. 理事会への提案事項を検討
b. 委員会討議事項についてふりかえり

4. 規程の制定等

(1) 一部改訂した規程

定款

役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程

職員就業規則
組織規程
文書規程
旅費規程
経理規程
契約規程
インターンシッププログラム実施規程
職員給与規程
監事監査規程
学生団体が行う活動に対する資金援助に係る実施規程
学生委員会に関する規程
特定個人情報等の適正な取扱いに関する基本方針
特定個人情報等取扱規程
寄付金等取扱規程
職員退職手当支給規程
専決基準規程

5. 届出・登録事項

(1) 内閣府へ提出

監事変更に伴う届出

「2018 年度事業計画書等の提出」の届出

(2) 登記事項

公益認定による名称の変更登記

定款の変更登記

監事変更登記

6. 事務局

(1) 機構

2018 年 3 月 31 日現在における事務局の機構は、別表 4（42 頁）のとおり、2 部である。

(2) 人員

2017 年度は、職員及び契約職員に移動はなく、2018 年 3 月 31 日現在における職員は 1 名、契約職員は 4 名である。

Ⅲ. 事業の実施状況

【公益目的事業】

学生が行うボランティア活動を支援するため、資金協力、スキルアップセミナー、ボランティア派遣、教育活動支援など幅広い事業を実施した。

なお、各事業の報告については、次のとおりである。

1. Gakuvo Style Fund

本事業は、ボランティアとして、単に誰かの役に立つだけではなく、活動を通して自らが成長し、社会へはばたく人材を育成することを目的として設立した事業である。「世界をよくする」という大きな目的のもと、具体的な実施計画を持ち、実施する力を持つ団体を対象に、以下の3コースを設定して、学生ボランティア団体に対して資金協力を行った。また、単なる資金提供に終わることなく、プレゼン審査会、活動報告会などを実施し、全国の学生ボランティア団体のネットワークの構築を併せて図った。

なお、本事業は明治学院大学とパートナーシップを結んだ上で実施し、運営については、本大学とセンターが事務局としての役割を担った。

Colla・vo（こらぼ） 協力金：1活動につき200,000円まで

自分の大学だけにとどまらず、他の大学の学生団体、さらには企業、行政、NPO、スポーツ団体などと「コラボ」することで、新たな活動の可能性に挑戦する学生向け。

Yuru・vo（ゆるぼ） 協力金：1活動につき100,000円まで

初めの一步を踏み出すキッカケボランティア活動。まだまだガッツリ系ではなく、「ゆるくボランティア活動を始めたい」という学生向け。

Baca・vo（ばかぼ） 協力金：1活動につき300,000円まで

活動を行う地域で発生している課題解決にどっぷりとつかり、「がむしゃら」と「ディープ」に活動している学生向け。

Gakuvo Style とは・・・

一般のボランティアとは異なり、ボランティア活動を通してボランティア自身が、日常生活の中では意識していなかった社会問題に気づき、その解決を模索し、行動に移すことによってボランティア自身が成長していくプロセス、およびその成長に重きをおいたボランティアの姿を指す。もちろん、成長するだけではなく、一般のボランティア同様、社会問題を改善していくことも重要である。

(1) 第3回 Gakuvo Style Fund

① 活動報告会

採択団体が協力金を活用した活動について振り返り、お互いに共有すると共に、

事務局からのフィードバックやゲスト講師による講演から、今後の活動に活かすことができるヒントを得る機会として開催した。また、採択団体同士のネットワーク構築の場にもなった。

- ア. 内 容：事務局からのフィードバック、各コース代表団体(※)による活動報告、グループワーク、ゲスト講師による講演
※活動期間中における事務局とのやり取りや、完了報告書の内容等に鑑み、以下の団体を事務局にて選定した。

コース	団体名	活動テーマ
Colla・vo	医療系学生サークル MEDICUS	医療学生が贈る、子どもたちへの“夢”と“楽しみ”を届ける活動
Yuru・vo	理科の修学旅行実行委員会	自然体験活動を通じて理科・科学に親しむスタディツアー
Baca・vo (国内における活動)	Exedra	空きアパートを科学館へ再生させる
Baca・vo (海外における活動)	SPW	ラオスの子どもの日常にスポーツを！

- イ. 講 演：石田 仁星氏、井手 良輔氏

(阿蘇復興への道/東海大学 学生) ※2017 年 5 月 14 日現在

熊本地震で被災した東海大学阿蘇キャンパス周辺地域の復興を目指し「阿蘇復興への道」を立ち上げたメンバーが、未だ復興への道のりが長い熊本地震について、学生の意識を再燃させると共に、同じ学生が地域のためにどんな想いで立ち上がったのかを知り、今後の活動への刺激にしてもらおうべく、被災から団体立ち上げに至るまでの経緯や活動内容、また現在の被災地域の様子について講演を行った。

- ウ. 開 催 日：2017 年 5 月 14 日 (日)

- エ. 参 加 者：第 3 回 Gakuvo Style Fund 採択団体 (全 38 団体)

※採択団体は全 40 団体であるが、活動継続困難により協力金の返還申し出た 1 団体及び当日体調不良のため不参加となった 1 団体の計 2 団体を除く 38 団体が参加した。

- オ. 場 所：日本財団バウルーム

※一般財団法人期間で実施した。

(2) 第4回 Gakuvo Style Fund

① 募集

センターのホームページや SNS など、インターネット上及び全国にある大学のボランティアセンター等にポスターや募集要綱を送付して募集した。

ア. 募集期間：2017 年 6 月 1 日（木）～ 6 月 15 日（木）

イ. 応募団体数：Colla・vo 25 団体（4,588,150 円）

Yuru・vo 34 団体（3,029,000 円）

Baca・vo 48 団体（13,916,580 円）

② 審査方法

ア. 書類審査

応募情報を元に、社会への貢献度、独創性、企画力、実施可能性、学生らしさ、申請コースへの適応度などといった観点から事務局にて実施した。

a. 実施期間：2017 年 6 月 16 日（金）～ 7 月 11 日（火）

b. 通過団体：Colla・vo 15 団体（2,620,000 円）

Yuru・vo 19 団体（1,570,000 円）

Baca・vo 29 団体（8,310,000 円）

イ. プレゼン審査会

書類審査を通過した Colla・vo 及び Baca・vo が、1 活動毎に事務局が指定した時間内で、審査委員へ向けて、応募内容のアピールポイントをプレゼンした。また、活動開始にあたって、事務局から会計処理等の注意事項や活動全般に係るアドバイス、ゲスト講師から専門的なレクチャーを受け、充実した活動へ繋げる機会とした。

a. 内 容：Colla・vo と Baca・vo によるプレゼン、事務説明会、
ゲスト講師による講演

b. 講 演：筒木 愛美氏

（一般社団法人防災ガール共同事務局長）※2017 年 7 月 30 日現在
活動だけではなく、活動の背景に存在する社会課題や、そこに対する取り組みについて社会へ「発信」する重要性を採択団体に気づいてもらうべく、様々なアプローチで社会へ防災を発信し、広めている一般社団法人防災ガールの事例や、採択団体も活用できる広報戦略についてレクチャーを行った。

c. 開催日：2017 年 7 月 30 日（日）

d. 場 所：日本財団バウルーム

e. 参加団体：Colla・vo 15 団体（2,620,000 円）

Yuru・vo 19 団体（1,570,000 円）※プレゼン審査なし。

Baca・vo 29 団体（8,310,000 円）

ウ. 最終審査会

書類審査、プレゼン審査の結果に鑑み、審査委員 5 名による審査会にて最終採択団体を決定した。

a. 開催日：2017 年 7 月 30 日（日）

b. 場所：日本財団ビル第 8 会議室

c. 採択団体：Colla・vo 10 団体（1,730,000 円）※1

Yuru・vo 21 団体（1,770,000 円）※2

Baca・vo 25 団体（7,010,000 円）※3

全 56 団体

各コースの採択団体内訳は下記の表の通りである。

※1（応募順）

（単位：円）

No.	団体名	代表所属大学	協力金額
1	関西国際大学 児童文化研究会 愛称 CCC child culture club	関西国際大学	200,000
2	てらこやちば	千葉大学	200,000
3	Keiwa HOPE	敬和学園大学	60,000
4	NPO 法人サイエンスリンク	東京大学大学院	200,000
5	季	東京藝術大学大学院	200,000
6	JuJu～カンボジア・村びと共生プロジェクト～	早稲田大学	100,000
7	薬害被害者支援サークル balloons+	東北大学大学院	190,000
8	特定非営利活動法人伊能社中(福知山)	福知山公立大学	200,000
9	とつぷろ	大阪大学	180,000
10	特定非営利活動法人伊能社中(神戸)	首都大学東京大学院	200,000

※2 (応募順)

(単位：円)

No.	団体名	代表所属大学	協力金額
1	東岡グループ	名古屋工業大学	80,000
2	AGLOC	神戸大学	100,000
3	佐賀女子短期大学 学生ボランティア部 Sun-Kissed	佐賀女子短期大学	100,000
4	おもしろ！(*)	高知工科大学	30,000
5	基礎ゼミ・展開ゼミ継続サークルたなぼた	東北大学	80,000
6	サイエンスリンク in 仙台実行委員会	東北大学	100,000
7	学生団体 C-plant	中央大学	100,000
8	対話の場の創造実行委員会	東京工業大学	100,000
9	海士ブータンプロジェクト	早稲田大学	100,000
10	福岡子ども支援学生連盟	九州大学	100,000
11	北病院学習支援ボランティア	山梨大学	70,000
12	K-Link	近畿大学	100,000
13	東北大 CARP	東北大学	60,000
14	ナトリーブ	尚絅学院大学	100,000
15	東海大学健康科学部社会福祉学科学習支援 ボランティアサポートチーム	東海大学大学院	50,000
16	地域の輪 TSUNAGARI	東海大学	100,000
17	ボランティアセンター白金地域活動	明治学院大学	30,000

No.	団体名	代表所属大学	協力金額
18	KUIS BOSAI	関西国際大学	100,000
19	IUYL(Inter University Youth League)	早稲田大学	70,000
20	SENJU LAB Kids	東京藝術大学	100,000
21	学生団体 STAND BY FUKUSHIMA	ミネソタ大学	100,000

(*)おもしろ！については、団体解散のため、2018年2月9日(金)付で協力金を返還する旨の申し出を受け、2018年2月14日(水)付にて決定を取り消した。

※3 (応募順)

(単位：円)

No.	団体名	代表所属大学	協力金額
1	FIWC 九州 (フレンズ国際ワークキャンプ九州委員会)	中村学園大学	300,000
2	学生団体レアスマイル	津田塾大学	300,000
3	インドワークキャンプ団体 namaste!つくば支部	筑波大学	250,000
4	よねさきの丘 PROJECT(non-tag)	芝浦工業大学大学院	300,000
5	医療系学生による国際協力隊 euphoria	慶応義塾大学	300,000
6	日本フィリピン交流サークル PocoPoco	中央大学	300,000
7	関西大学 J-CaJa(Join Cambodia&Japan)	関西大学	300,000
8	Tsunagu	鹿児島大学	200,000
9	Exedra	筑波大学大学院	300,000
10	学生団体 リプラボ	福島大学	300,000
11	Upple ましきた Kids Project チーム	九州女子大学	300,000

No.	団体名	代表所属大学	協力金額
12	大島みらいチーム	神戸大学大学院	290,000
13	クライシスマップーズ.univ	青山学院大学	300,000
14	佐賀女子短期大学 国際ボランティアサークル	佐賀女子短期大学	300,000
15	アフリカ医療研究会	慶応義塾大学	300,000
16	学生 NGO HaLuz	上智大学	240,000
17	木島平村公認サークル わせだいら	早稲田大学	300,000
18	芝園かけはしプロジェクト	東京大学	190,000
19	東北大学ぽかぽか	東北大学	300,000
20	首都大学東京 ネットワークデザインスタジオ 有志	首都大学東京大学院	300,000
21	国食堂	慶応義塾大学	300,000
22	Aste	香川大学	300,000
23	Summer Teaching Program Cambodia	上智大学	300,000
24	きずな International	明治大学	250,000
25	NPO 法人 JUNKO Association	明治学院大学	190,000

エ. 審査委員 審査委員については、別表 5（43 頁）に記載。

2. 大学等連携ボランティア関連講座

本事業は、大学の教育力を広く拡充し、学生のボランティア活動及び社会参画の推進を図る講座やプログラムを大学等と連携して実施した。これは、学生時代のボランティア活動をはじめとする社会参画が、全人的な人間成長に寄与するというセンター設立当初よりの考え方に基づいており、教育改革に積極的な大学やその関係機関と協力協定を締結する

など、協力関係を構築した上で進めている。

(1) 協定締結について

2018 年 3 月 31 日現在で大学 42 校、短期大学 1 校、大学コンソーシアム 1 団体と協定を締結している。なお大学コンソーシアムには大学等 40 校が加盟しており、2017 年度までで合計 82 校との協力関係が構築された。2017 年度の大学等との新規協定締結は、22 校であった。

(五十音順)

No	大学名	締結先	締結日	新規
1	愛知淑徳大学	コミュニティコラボレーションセンター	2014 年10月 1 日	
2	青山学院大学(*)	ボランティアセンター	2017 年 4 月 1 日	○
3	亜細亜大学(*)	全学	2017 年 5 月23日	○
4	岩手大学	三陸復興・地域創生推進機構	2017 年10月31日	○
5	追手門学院大学	全学	2013 年 3 月 1 日	
6	大阪大学	大学院ビジネスエンジニアリング専攻	2012 年11月 1 日	
7	大阪府立大学	ボランティアセンター V-station	2011 年 5 月 1 日	
8	お茶の水女子大学	全学	2017 年 2 月23日	
9	嘉悦大学	全学	2011 年 7 月 1 日	
10	関西国際大学(*)	全学	2017 年 4 月 1 日	○
11	神田外語大学	全学	2018 年 2 月 1 日	○
12	京都産業大学(*)	全学	2017 年 4 月 1 日	○
13	熊本学園大学(*)	ボランティアセンター	2017 年 4 月 1 日	○
14	順天堂大学	スポーツ健康科学部 さくらキャンパス学生部	2011 年12月 1 日	
15	聖学院大学	全学	2017 年12月 1 日	○
16	成蹊大学(*)	ボランティア支援センター	2017 年 4 月 1 日	○
17	星槎大学(*)	全学	2017 年 4 月 1 日	○

No	大学名	締結先	締結日	新規
18	聖心女子大学	全学	2014 年 3 月 1 日	
19	摂南大学(*)	全学	2017 年 4 月 1 日	○
20	大正大学	全学	2017 年 7 月 1 日	○
21	高崎健康福祉大学(*)	全学	2017 年 4 月 1 日	○
22	千葉大学	国際教養学部	2012 年 3 月 1 日	
23	中央大学	学生部	2014 年 3 月 1 日	
24	津田塾大学(*)	学外学修センター	2017 年 4 月 1 日	○
25	東京海洋大学	全学	2012 年 5 月 1 日	
26	東北大学	高度教養教育・学生支援機構	2017 年12月21日	○
27	東北福祉大学	総合マネジメント学部	2012 年 4 月 1 日	
28	東洋大学(*)	全学	2017 年 4 月 1 日	○
29	徳島文理大学	全学	2017 年10月 1 日	○
30	新潟青陵大学	全学	2017 年 7 月 1 日	○
31	新潟青陵大学 短期大学部	全学	2017 年 7 月 1 日	○
32	日本文理大学	全学	2012 年 4 月 1 日	
33	広島修道大学	全学	2017 年12月 6 日	○
34	福山市立大学	全学	2015 年 9 月 1 日	
35	法政大学(*)	ボランティアセンター	2017 年 4 月 1 日	○
36	松本大学	全学	2017 年 2 月 1 日	
37	明治学院大学	ボランティアセンター	2011 年12月 1 日	
38	明治大学	ボランティアセンター	2015 年12月 1 日	

No	大学名	締結先	締結日	新規
39	立教大学	総長室社会連携課	2015 年 7 月 1 日	
40	立正大学	社会福祉学部	2017 年11月 1 日	○
41	了徳寺大学	全学	2013 年11月 1 日	
42	麗澤大学	全学	2011 年 8 月 1 日	
43	早稲田大学	平山郁夫記念ボランティアセンター	2010 月 6 月 1 日	
44	大学コンソーシアム ひょうご神戸	コンソーシアム	2015 年 4 月 1 日	

(*)一般財団法人期間に締結した。

(2) ボランティア関連講座、ボランティアプログラムの開発及び実施

① 学内中心の講座やプログラム

大学内を中心としたボランティアについて学ぶ単位科目や課外講座などの開発や実施を行った。

ア. 実施大学：追手門学院大学、聖心女子大学、千葉大学、津田塾大学、
東北福祉大学、立教大学

イ. ボランティア活動の基礎知識を学ぶ講座

a. 聖心女子大学

講義名：ボランティア体験の振り返り

学 期：後期

内 容：自分がこれまでに行ったボランティア活動・社会貢献活動を振り返り、
またその活動を他人に伝えることの意味を考えて言語化を行った。

b. 千葉大学

講義名：学生ボランティア実践入門

学 期：T5

内 容：ボランティア活動に深く関わる仕事をしている方々を招き、それぞれの経験談から学ぶとともに、学生が実際にボランティア活動を始めに当たって必要となる基礎的な知識や心構え等を体系的に学ぶ機会を提供した。

c. 津田塾大学

事業名：ボランティア講座

活動日程／キャンパス 参加者：2017年 4月26日（水）／小平 40名
5月11日（木）／千駄ヶ谷 20名

内容：学生のギャップタームでのボランティア活動推進のため、他大学のボランティア活動を経験した学生による事例発表を行った。

※一般財団法人期間で実施した。

d. 立教大学

講義名：ボランティア論—知ること、考えること、行動すること—

学期：前期

内容：ゲストスピーカーを迎えて、実際のボランティアのニーズ、活動を生かすための仕組み、ボランティア自身の気づき、活動が与えるインパクトがどのようにリンクし合っていくのかを、学生が具体的にイメージしながら考察できるような授業を行った。

※第7回目までは一般財団法人期間で実施した。

ウ. 特定のテーマでのボランティア活動や社会課題を考える講座

a. 追手門学院大学

講義名：社会問題リサーチ演習Ⅰ

学期：前期

内容：ゲストによる講義、長島愛生園でのフィールド・スタディを行った。

※第8回目までは一般財団法人期間で実施した。

b. 聖心女子大学

講義名：災害と人間（3.11 以後の社会と文化）

学期：前期

内容：東日本大震災をテーマとして、災害が人間の心、社会、文化に与える影響について多様な視点から考えるとともに、災害リスクを内包している現代社会とどう向き合うかを考察した。

※第7回目までは一般財団法人期間で実施した。

講義名：被災地支援プロジェクト

（東日本大震災による被災地の現状と地域活性支援の実践）

学期：前期

内容：被災地（福島県いわき市）の現状と課題を、包括性と具体性をもって理解し、「フィールド」という現場と「クラス」という講義をかけ

合わせ、被災地における課題を抽出し、解決策を導き出した。
※第6回目までは一般財団法人期間で実施した。

c. 東北福祉大学

講義名：まちづくり論

学 期：前期

内 容：被災地は、避難者住民の生活の場の確保、居住地域への帰還・定住化が進んでいない。復興のまちづくりとして先駆的に取り組み成果がみられる宮城県岩沼市を事例として取り上げ、現地での人的交流を通じた復興のまちづくりを学んだ。

※第7回目までは一般財団法人期間で実施した。

d. 立教大学

講義名：RSL-プロジェクト・プランニング-

学 期：前期

内 容：様々な状況の中で生きている人たちと活動を共にし、そこでの活動を通して現代社会が抱える諸課題への理解と関心を深めた。

実習日程：2017年8月2日（水）～8月13日（日）

活動地：インドネシア共和国 ジャカルタ

実習内容：社会起業家へインタビューを行い、その内容をまとめ、プレゼンテーションを行った。

※第4回目までは一般財団法人期間で実施した。

② 学外中心のプログラムや講座

学外を中心としたボランティア活動の実施や社会課題の現地調査を行った。単位科目と課外講座の両方の場合があった。

ア. 実施大学：愛知淑徳大学、追手門学院大学、大阪大学、熊本学園大学、成蹊大学、聖心女子大学、摂南大学、大正大学、千葉大学、中央大学、福山市立大学、法政大学、大学コンソーシアムひょうご神戸

イ. 授業やゼミでの実習やボランティアセンターなどが主催したプログラム

a. 愛知淑徳大学

事業名：にじいろキャンプ

活動日程：2017年11月3日（金）～11月4日（土）

参加者：10名

活動場所：岐阜県大野郡白川村

内 容：外国にルーツを持つ中高生を対象に、将来を考えるきっかけを提供するワークキャンプを行った。

b. 大阪大学

事業名：バン格拉デシュ教育プロジェクト

活動日程：2017年11月1日（水）～ 11月6日（月）

参加者：4名

活動場所：バン格拉デシュ ダッカ、Munshigonj

内容：バン格拉デシュの子どもたちに知育教材を普及させるための活動を行った。知育教材として紙とんぼを選び、事前に撮影した動画及び Skype を使い、紙とんぼを作る遠隔授業を行った。

c. 聖心女子大学

事業名：陸前高田子ども教育支援ボランティア活動

活動日程／参加者：2017年 5月20日（土）～ 5月21日（日）／ 4名

6月17日（日）～ 6月18日（日）／ 5名

11月18日（土）～ 11月19日（日）／ 4名

12月16日（土）～ 12月17日（日）／ 3名

2018年 2月17日（土）～ 2月18日（日）／ 4名

3月17日（土）～ 3月18日（日）／ 3名

活動場所：岩手県陸前高田市

内容：現地の小中学生を対象にした遊び支援、語り部の案内による市街地見学を行った。

※5月20日～5月21日のみ一般財団法人期間で実施した。

事業名：SHOC project スタディツアー

活動日程：2017年9月10日（日）

参加者：12名

活動場所：福島県いわき市

内容：現地ボランティアセンター職員による講話、コットンベイズ（人形）作り体験を行った。

事業名：福島勉強会

活動日程：2017年7月14日（金）

参加者：10名

内容：福島県南相馬市の現状について学んだ。

事業名：南相馬幼稚園ボランティア

活動日程／参加者：2017年8月16日（水）～ 8月18日（金）／ 4名

2018年3月14日（水）～ 3月16日（金）／ 3名

活動場所：福島県南相馬市

内 容：幼稚園児の見守りサポート、サロン活動を行った。

事業名：亘理学習支援ボランティア

活動日程：2017年8月21日（月）～8月24日（木）

参加者：8名

活動場所：宮城県亘理郡亘理町

内 容：被災地研修、現地の子どもたちを対象にした学習支援を行った。

d. 成蹊大学

事業名：東北復興・創生プロジェクトいしのまき

活動日程：2018年2月8日（木）～2月10日（土）

参加者：8名

活動場所：宮城県石巻市

内 容：大川小学校訪問など東日本大震災を学ぶスタディツアー、
住民との交流会、漁業体験を行った。

事業名：東北復興・創生プロジェクトふくしま

活動日程：2018年2月21日（水）～2月23日（金）

参加者：6名

活動場所：福島県双葉郡楡葉町、双葉郡富岡町、いわき市、伊達市

内 容：原発災害を学ぶスタディツアー、住民との交流会、
農業体験を行った。

e. 千葉大学

講義名：地域を知り、地域で企画する B

学 期：T5、T6

内 容：T5では大学で講義、T6では現地調査と大学で事後学習を行った。
廃校小学校の活用を中心に地域コミュニティのあり方を考察し、どの
ような企画を立て、活動することができるか考え、行動した。

実習日程：2018年3月2日（金）～3月4日（日）

活動場所：千葉県鴨川市

実習内容：フィールドワークを通して地域課題の理解を深め、子どもたちへ参加
型学習や工作教室などを行った。

f. 中央大学

講義名：現代社会分析Ⅱ

学 期：後期

内 容：「法の意味・はたらき・課題」を考えるため、フィールドワークと
クラスでの講義やグループワークを行った。

実習日程： 2017 年 10 月 6 日(金)～ 10 月 8 日(日)

2018 年 1 月 11 日(木)～ 1 月 13 日(土)

活動場所：宮城県本吉郡南三陸町、気仙沼市

実習内容：10 月は震災と復興を学び、問題意識を深めるワークショップを行っ
た。1 月は地域の弁護士なども迎えて、学生個々人が個別のテーマで
報告会を行った。

g. 福山市立大学

講 義 名：専門演習Ⅱ

学 期：後期

内 容：インタビューの技法、収集、整理、分析、文章作成までの
手順を演習形式で学び、フィールドワークを行った。

実習日程：2017 年 11 月 2 日（木）～ 11 月 3 日（金）

活動場所：京都府京都市

実習内容：多文化共生の祭である東九条マダンにおいて運営補助や参加者
との交流を行った。

ウ. 企画をつくり上げ、実施する活動

a. 追手門学院大学

事 業 名：東北支援プロジェクト～普代村・村づくり支援プログラム～

活動日程／参加者： 2017 年 8 月 27 日(金)～ 9 月 4 日(月)／ 5 名
2018 年 3 月 6 日(火)～ 3 月 8 日(木)／ 6 名

活動場所：岩手県下閉伊郡普代村

内 容：小中学生を対象とした学習支援や交流活動、村づくりに関する
課題を抽出し、その解決策の検討、提案までを行った。

b. 大正大学

事 業 名：ツシマヤマネコ保護活動

活動日程：2017 年 9 月 5 日（火）～ 9 月 9 日（土）

参 加 者：6 名

活動場所：長崎県対馬市

内 容：ツシマヤマネコ交通事故対策のためにドライバーへのアピール、
道路下の暗渠清掃、交通標識周辺の整備などを行った。

c. 大学コンソーシアムひょうご神戸

事業名：学生ボランティア養成プログラム 2017 Part1

活動日程：2017 年 6 月 10 日（土）～ 6 月 11 日（日）

参加者：12 名

活動場所：関西学院千刈キャンプ

内容：災害復旧時のボランティア活動に役立つアウトドアスキルの実習、避難所運営を疑似体験するワークショップなどを行った。

事業名：学生ボランティア養成プログラム 2017 Part2

活動日程：2017 年 7 月 8 日（土）～ 7 月 9 日（日）

参加者：15 名

活動場所：兵庫県丹波市

内容：丹波豪雨災害の被害と復興を学び、学生が丹波のために何ができるか具体的なプログラムを考えた。

事業名：学生ボランティア養成プログラム 2017 Part3

活動日程：2017 年 9 月 24 日（日）～ 2018 年 3 月 29 日（木）

参加者：7 名

活動場所：兵庫県丹波市

内容：学生ボランティア養成プログラム 2017 Part2 において発案された「丹波プロモーションビデオ」を、市内各所での取材、撮影、編集を経て完成させ、試写会を行った。

エ. 学生主体のボランティア活動の促進

a. 熊本学園大学

活動日程／参加者：2017 年 8 月 1 日（火）／ 4 名

8 月 2 日（水）／ 3 名

8 月 3 日（木）／ 5 名

8 月 4 日（金）／ 3 名

8 月 7 日（月）／ 4 名

8 月 8 日（火）／ 8 名

8 月 9 日（水）／ 7 名

8 月 10 日（木）／ 6 名

8 月 21 日（月）／ 2 名

8 月 22 日（火）／ 2 名

8 月 23 日（水）／ 3 名

8 月 24 日（木）／ 2 名

8月25日（金）／ 2名

8月28日（月）／ 4名

8月29日（火）／ 4名

8月30日（水）／ 3名

8月31日（木）／ 2名

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(子どもの居場所づくり)

活動場所：熊本県上益城郡益城町

内容：子どもの学習環境支援及び居場所づくりを行った。

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(震災こころケア)

活動日程：2017年4月30日（日）

参加者：6名

活動場所：熊本県熊本市

内容：被災に遭われた方の心のケアを目的としたイベントにて、マルシェやワークショップを行った。

※一般財団法人期間で実施した。

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動（木山仮設ふうせんプール）

活動日程：2017年5月5日（金）

参加者：2名

活動場所：熊本県上益城郡益城町

内容：子どものあそび支援を行った。

※一般財団法人期間で実施した。

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(れんが感謝祭)

活動日程：2017年5月14日（日）

参加者：1名

活動場所：熊本県合志市

内容：障がい児向けのお祭りの支援を行った。

※一般財団法人期間で実施した。

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(仮設住宅グリーンカーテン設置)

活動日程：2017年6月3日（土）

参加者：2名

活動場所：熊本県熊本市

内容：仮設住宅にグリーンカーテンを設置した。

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(津森仮設芝生張り)

活動日程：2017年7月8日(土)

参加者：7名

活動場所：熊本県上益城郡益城町

内容：仮設住宅の敷地内への憩いの場づくりを行った。

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(城南手作り夏祭り)

活動日程：2017年7月22日(土)

参加者：3名

活動場所：熊本県熊本市

内容：被災した住民が主催したお祭りの支援を行った。

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(子ども防災食講習)

活動日程：2017年7月29日(土)

参加者：2名

活動場所：熊本県上益城郡益城町

内容：子どもを対象にした防災食づくりイベントの支援を行った。

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(夏休み子ども学習支援 in 菊陽町)

活動日程／参加者：2017年8月17日(木)／2名

8月24日(木)／2名

活動場所：熊本県菊池郡菊陽町

内容：子どもの学習支援及びワークショップを行った。

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(津森仮設ちびっこ夏祭り)

活動日程：2017年8月19日(土)

参加者：4名

活動場所：熊本県上益城郡益城町

内容：子ども夏祭りの支援を行った。

事業名：被災地コミュニティ形成支援活動(つながるエリア)

活動日程：2017年9月2日(土)

参加者：4名

活動場所：熊本県熊本市

内容：みなし仮設の住民向けイベントにおいて託児コーナーを担当した。

b. 摂南大学

講義名：教養特別講義ボランティア活動

活動日程：夏期集中

参加者：13名

活動場所：岩手県釜石市、和歌山県田辺市

内容：学生が自主的に活動場所を探し、ボランティアとして体験学習や農業などの活動を10日以上行った。

c. 中央大学

事業名：東北関連活動「はまぎくのつぼみ」

活動日程／参加者：2017年 6月 9日(金)～ 6月11日(月)／ 5名
8月 6日(日)～ 8月10日(木)／ 14名
8月14日(月)～ 8月18日(金)／ 12名
9月 4日(月)～ 9月 8日(金)／ 8名
12月25日(月)～ 12月27日(水)／ 11名
2018年 3月 4日(日)～ 3月 9日(金)／ 11名

活動場所：岩手県宮古市

内容：フィールドワークや災害公営住宅でのサロン支援、学童保育支援、夏祭りへの参加を行い、都内での物産展を行った。

事業名：東北関連活動「チーム女川」

活動日程／参加者：2017年 6月23日(金)～ 6月25日(日)／ 4名
8月28日(月)～ 9月 1日(金)／ 3名
12月25日(月)～ 12月27日(水)／ 1名
2018年 2月14日(水)～ 2月17日(土)／ 6名

活動場所：宮城県牡鹿郡女川町

内容：フィールドワークと災害公営住宅でのコミュニティ形成支援、都内での物産展を行った。

事業名：東北関連活動「チームくまもと」

活動日程：2017年7月8日(土)～7月9日(日)

参加者：5名

活動場所：熊本県阿蘇郡西原村

内容：足湯ボランティアや熊本学園大学の学生と交流会を行った。

d. 法政大学

事業名：多摩ボランティアセンター・チームたまモン第1次隊

活動日程：2017年8月22日（火）～8月25日（金）

参加者：6名

活動場所：熊本県上益城郡益城町

内容：仮設団地にて子ども向けに実験教室や学習支援を行った。

事業名：多摩ボランティアセンター・チームたまモン第2次隊

活動日程：2017年9月30日（土）～10月1日（日）

参加者：6名

活動場所：熊本県上益城郡益城町

内容：仮設団地にて子ども向けに実験教室や学習支援を行い、住民と郷土料理作りと交流会を行った。

事業名：多摩ボランティアセンター・チームたまモン第3次隊

活動日程：2018年2月18日（日）～2月20日（火）

参加者：4名

活動場所：熊本県上益城郡益城町、熊本県阿蘇郡西原村

内容：仮設団地住民との交流会や移動図書館の運営補助などを、熊本保健科学大学の学生と協力して行った。

3. 学生ボランティア派遣

本事業は、学生が社会や世界で起きている問題を「他人事」から「自分事」として捉えるようになり、行動を起こしていくための機会を提供した。

派遣先の選定については、自然災害による被災地はもちろんのこと、学生ボランティアのニーズがある地域へ学生を派遣した。

派遣にあたっては、必ずオリエンテーションと振り返りの時間を設け、参加した学生が学びを深められるようなプログラムを実施した。

(1) チーム「ながぐつ」プロジェクト福島

参加者募集に関するチラシ・ポスターを全国各地の大学に送付したことにより、各地方からの参加者が増加し（首都圏を除く1道2府17県）、2018年3月時点で延べ11,293名の学生が参加した。また参加者所属大学数は、昨年度より17大学増加し295大学となった。

活動内容としては、福島県における活動を始めた当初から継続して行っている農業支援や地域活性を目的としたイベント、祭り支援を中心に行った。また、震災当時は小中学生だった学生が増加してきたことから、「震災について学ぶ」プログラムとして未だ避難生活

を余儀なくされている双葉郡域への視察や、地元住民と復興についての意見交換を積極的に行った。

<活動状況>

陣	活動日程	参加者数	大学数	活動内容
157	4月28日(金)～5月1日(月)	9	7	・農業支援 ・イベント運営手伝い ・被災地視察/講話
158	5月19日(金)～5月21日(日)	10	7	・植樹祭 ・被災地視察/講話
159	6月9日(金)～6月11日(日)	10	5	・農業支援 ・被災地視察/講話
160	6月16日(金)～6月18日(日)	10	7	・農業支援 ・被災地視察/講話
161	6月30日(金)～7月2日(日)	92	1	・スポーツテスト補助 ・農業支援
162	7月7日(金)～7月9日(日)	30	1	・祭り支援 ・農業支援
163	8月18日(金)～8月21日(月)	11	5	・農業支援 ・イベント運営手伝い ・募金活動 ・被災地視察/講話
164	9月1日(金)～9月4日(月)	11	9	・農業支援 ・イベント運営手伝い ・被災地視察/講話

陣	活動日程	参加者数	大学数	活動内容
165	9月13日(水)～9月16日(土)	10	9	・農業支援 ・被災地視察/講話
166	10月20日(金)～10月22日(日)	8	5	・農業支援 ・被災地視察/講話
167	11月10日(金)～11月12日(日)	4	4	・農業支援 ・被災地視察/講話
168	11月17日(金)～11月19日(日)	4	3	・農業支援 ・被災地視察/講話
169	12月1日(金)～12月3日(日)	11	6	・農業支援 ・被災地視察/講話
170	12月15日(金)～12月17日(日)	10	8	・農業支援 ・被災地視察/講話
171	1月12日(金)～1月14日(日)	10	8	・農業支援 ・被災地視察/講話
172	2月1日(木)～2月3日(土)	7	1	・農業支援 ・被災地視察/講話 ・地元住民との意見交換会
173	2月9日(金)～2月12日(祝)	9	8	・農業支援 ・イベント運営手伝い ・被災地視察/講話

陣	活動日程	参加者数	大学数	活動内容
174	2月20日(火)～2月23日(金)	9	8	・農業支援 ・被災地視察/講話
175	2月27日(火)～3月1日(木)	82	1	・フラッグフットボール教室 ・農業支援
176	3月6日(火)～3月8日(木)	27	1	・イベント準備手伝い ・農業支援
177	3月9日(金)～3月12日(月)	8	6	・イベント運営手伝い ・農業支援 ・被災地視察/講話
178	3月20日(火)～3月23日(金)	7	7	・農業支援 ・被災地視察/講話

2017年度延べ参加者数：1,004名 参加者所属大学総数：76大学

※チーム「ながぐつ」プロジェクト福島の延べ参加者数は「参加人数×活動日数」で算出している。

※157陣、158陣については一般財団法人期間で実施した。

(2) チーム「ながぐつ」プロジェクト緊急災害支援

近年日本各地で発生する大規模な自然災害等で、助力が必要な地域において、その必要性に応じて、学生を被災地へ派遣した。

① 秋田豪雨ボランティア派遣

2017年7月22日(土)～7月23日(日)にかけて秋田県を記録的な大雨が襲った。これにより、甚大な被害を受けた秋田県大仙市へ学生ボランティアを派遣した。本派遣については、現場が東北地方であったことを踏まえ、センターと緊密な関係であるGakuvo 東北（事務局：一般社団法人ワカツク）と協力し、参加学生の集客やプログラム構築を行った。

活動内容としては、被災した家屋の清掃を行った。

派遣については、被害状況が落ち着き始め、秋田県内で今後の復旧・復興作業を進めて

いくことができる段階に来ており、本派遣の数週間後にボランティアセンターが閉所されることを受け、1陣のみの派遣とした。

<活動状況>

陣	活動日程	参加者数	大学数	活動内容
1	8月8日(火)	5	2	被災家屋の清掃

延べ参加者数：5名 参加者所属大学総数：2大学

※チーム「ながぐつ」プロジェクト緊急災害支援の延べ参加者数は「参加人数×活動日数」で算出している。

②九州豪雨ボランティア派遣

2017年7月5日(水)～7月6日(木)にかけて福岡県及び大分県を記録的な大雨が襲った。これにより、福岡県と大分県が甚大な被害に見舞われた。当初、災害直後の現場へ学生ボランティアを派遣するべく、公益財団法人日本財団と連携を図りながら情報収集や派遣準備を進めていたが、派遣候補地であった福岡県朝倉市は豪雨によって山間部から流れてきた流木による被害が大きく、学生ボランティアが活動を行うことができる状況になかったため、派遣を一旦見送り引き続き現地情報収集に努めた。

その後、発災から3か月が経過しようとしていた9月末頃、流木等が撤去され、ようやく人が入れるようになったことでボランティアが求められていること、また本災害について社会の意識が薄れ始めているこの時期に学生を派遣することで、継続的な支援の必要性を学生に気づいてもらうだけではなく、社会に訴えていくきっかけとするべく、10月に計4回の派遣を行った。

活動内容としては、被災家屋の清掃や泥かき、家財の搬出、大切なものと廃棄するものを仕分けするといった作業を行った。

<活動状況>

陣	活動日程	参加者数	大学数	内容
1	10月21日(土)	2	2	・床剥ぎ ・泥出し ・備品の運び出し
2	10月22日(日)	6	4	・倉庫内の泥出し、清掃 ・家財道具の運び出し ・母屋の書類探し
3	10月28日(土)	6	5	・倒壊した家屋の瓦礫運び及び家財整理 ・土砂によって埋もれた納屋の整理 ・柿農家工場の整理
4	10月29日(日)	8	6	・倒壊した家屋の瓦礫運び及び家財整理 ・柿農家工場の整理

延べ参加者数：22 名 参加者所属大学総数：14 大学

(3) Global Leadership Program

慣れ親しんだ日本とはまったく違う環境で、異なるバックグラウンドをもつ参加者と協働することで、多様性に触れ、共同生活や一つのことを共に作り上げることによって、コミュニケーションを学ぶと同時に、世界が抱える様々な社会問題について考える機会を提供した。

プログラムは、社会起業家にインタビューを行う「社会起業家編」、低所得者層の子どもを対象としたワークショップの企画、運営を行う「文化・教育編」の2プログラムを行った。

① 2016 年度 Global Leadership Program

ア. ふりかえり会（文化・教育編）

2017 年 3 月に実施した「文化・教育編」プログラム参加者を対象に、活動を通して学んだことや気づいたこと、またそれを今後の学生生活や将来にどう繋げていくのかを考えるふりかえり会を行った。

- a. 開催日：2017 年 4 月 1 日（土）
- b. 場所：センター会議室
- c. 参加者：「文化・教育編」参加者 10 名
- d. 内容：各個人の振り返りと内容の共有

※一般財団法人期間で実施した。

イ. 活動報告会

2017 年 2 月と 3 月に実施した 2 プログラムについて、参加者が現地での活動内容やそこからどんなことを学んだか発表した。

- a. 開催日：2017 年 4 月 22 日（土）
- b. 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- c. 登壇者：「社会起業家編」参加者 8 名及び「文化・教育編」参加者 10 名
- d. 一般参加者：20 名
- e. 内容：各プログラム参加者より現地活動及びそこから得た学びや今後の展望について報告を行った。

※一般財団法人期間においては、セミナー/シンポジウム事業として実施した。

② 2017 年度 Global Leadership Program

多民族、多宗教が混在するインドネシア ジャカルタとジョグジャカルタで 1 回ずつ、計 2 回のプログラムを、現地受入団体 Alternative Project と協働で開催し、延べ 18 名の学生が参加した。

ア. 社会起業家編

現在、インドネシアが抱える多くの社会課題を改善するためにビジネスを興し、自

分の国を良くしようと知能と情熱をもって取り組む社会起業家が増えている。そのような社会起業家に学生が直接インタビューし、動画やプレゼンテーションを作成、プログラムの最後に社会起業家とその企業に興味をもつ学生に向けて発表した。

イ. 文化・教育編

低所得者層の子どもが、自分の将来を考え、切り拓いていく力を刺激するために、環境教育やモラル教育といったテーマで、楽しみながら学ぶワークショップを学生がゼロから作り上げて行った。

<活動状況>

	活動日程	参加者数	大学数	活動内容
社会起業家編	2月4日(日) 2月18日(日)	8	7	・社会起業家へのインタビュー ・宗教ワークショップ ・ホームステイ
文化・教育編	2月26日(月) 3月12日(月)	10	9	・低所得者層の子どもへのワークショップ ・宗教ワークショップ ・日本文化ワークショップ ・ホームステイ

延べ参加者数：18名 参加者所属大学総数：15大学

(4) プラチナ未来人財育成塾@柏

未来人財育成塾は、全国から中学生 120 名が集まり、プラチナ社会実現に寄与する未来のリーダー育成を目的として、ノーベル賞を受賞した研究者や宇宙飛行士など 10 名ほどによる講義が行われた。

学生は、講師と中学生をつなぐ役割を担い、中学生の学習支援や個別相談などを行った。

① 第1回事前研修

ア. 活動日程：2017年6月24日(土)

イ. 場所：柏の葉カンファレンスセンター

ウ. 参加者：23名

エ. 所属大学数：15大学

オ. 内容：プラチナ未来人財育成塾の基礎知識獲得と予行演習の実施

② 第2回事前研修

ア. 活動日程：2017年7月1日(土)

イ. 場所：スターツ総合研修センター

ウ. 参 加 者：23 名

エ. 所属大学数：15 大学

オ. 内 容：プラチナ未来人財育成塾@柏でのグループワークのシミュレーション、
個別相談の準備

③ プラチナ未来人財育成塾@柏

ア. 活動日程：2017 年 8 月 3 日（木）～ 8 月 7 日（月）

イ. 場 所：柏の葉カンファレンスセンター、スターツ総合研修センター

ウ. 参 加 者：23 名

エ. 所属大学数：15 大学

オ. 内 容：グループワークの進行や中学生への個別相談を実施

4. セミナー/シンポジウム

本事業は、学生ボランティアのスキルアップやネットワーク構築を目的としてセミナーやシンポジウム、PR 力コンテストを開催した。

(1) 災害ボランティアセミナー

災害時に学生がボランティアとして迅速に活動できるよう、協力協定を締結していない大学にて、災害ボランティアの初歩を学ぶセミナーを行った。

① 開 催 日：2017 年 12 月 19 日（火）

② 場 所：二松学舎大学九段キャンパス

③ 参 加 者：130 名

④ 内 容：災害ボランティアからのキャリア形成を講義した。

⑤ 講 師：澁谷 拓也氏

（東洋大学 学生）※2017 年 12 月 19 日現在

藤井 優佳氏

（東京家政大学 学生）※2017 年 12 月 19 日現在

(2) ボランティアシンポジウム

センターと連携して事業を行なっている大学の講座やプログラムに参加した学生が、活動や自身の学びを発表する事により、学生同士の学びあいとネットワークづくりを目的としてシンポジウムを行った。

① 開催日時：2018 年 2 月 10 日(土)～2 月 11 日(日)

② 場 所：TKP 新橋汐留ビジネスセンター

③ 参 加 者：56 名

④ 発表グループ：16 グループ

愛知淑徳大学、追手門学院大学、大阪大学、熊本学園大学*、大正大学

中央大学*、東北大学*、東北福祉大学、新潟青陵大学、日本文理大学
福山市立大学、法政大学、大学コンソーシアムひょうご神戸

* 2 グループが発表した大学

- ⑤ 内 容：活動報告を中心に、互いの活動へのフィードバックを行うグループワーク、報告のレベルを向上させるためのプレゼン講座、取材と報告づくり講座を行った。

- ⑥ 講 師：横尾 俊成氏

(特定非営利活動法人グリーンバード代表) プレゼン講座担当

森田 泰進氏

(読売新聞社記者) 取材と報告づくり講座担当

(3) 第8回 PR カコンテスト V-1

学生ボランティアの社会への発信力を育成するために、学生が活動を伝える PR 動画を作成し、優秀な作品を表彰するコンテストを行った。

- ① 募集期間：2017 年12月 6 日（水）～2018 年 2 月 23 日（金）

- ② 審査日時：2018 年 3 月 5 日（月）

- ③ 審査場所：日本財団学生ボランティアセンター会議室

- ④ 内 容：学生ボランティア団体を対象に、映像テーマを「自分たちが挑む課題に関心を持ってもらう」としてコンテストを行った。また、発信力向上や映像技術を学ぶセミナーを実施した。

- ⑤ 審 査 員：鎌仲 ひとみ氏

(映像作家)

谷村 一成氏

(特定非営利活動法人グリーンバード インターン／中央大学 学生)

※2018 年 3 月 5 日現在

小鹿 猛志氏

(若羽メディアパーティー 副代表／法政大学 学生)

※2018 年 3 月 5 日現在

- ⑥ 応募団体：4 団体

出 場 団 体 名	作 品 名	代表所属大学
IUYL	無限の可能性へ	上智大学
NPO 法人 good !	まだ見ぬ世界へ	千葉大学
Gakuvo2017 年度インターン	次へのバトン	日本女子大学
つながり大作戦	想いがつながる	山口大学

- ⑦ 受賞団体：グ ラ ン プ リ 該当団体無し

審査員奨励賞 IUYL

⑧ 学生限定トレーニング

ア. 企画広報編

- a. 開催日：2018年2月8日(木)
- b. 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- c. 講師：谷村 一成氏
(特定非営利活動法人グリーンバード インターン／中央大学 学生)
※2018年2月8日現在
- d. 参加者：20名
- e. 内容：学生団体が企画を成功させるための講義とグループワークを行った。

イ. 映像入門編

- a. 開催日：2018年2月14日(水)
- b. 場所：東京ウィメンズプラザ
- c. 講師：小鹿 猛志氏
(若羽メディアパーティー副代表／法政大学 学生)
※2018年2月14日現在
- d. 参加者：10名
- e. 内容：映像制作の基礎である絵コンテの作り方や撮影方法などを学んだ。

5. インターンプログラム

本事業は、学生目線からボランティアの支援を行うため、2017年度インターンを採用した。インターンはPR力コンテストやその他自主イベントの企画・運営、センター事業等の補助を行った。

- (1) インターン 2017年度インターンは、別表6「インターン名簿」(44頁)のとおり、5名である。

- ① 活動期間／参加者：2017年4月8日(土)～2018年3月28日／3名
5月4日(木)～2018年3月28日／2名

(2) 合宿

- ① 開催日：2017年6月24日(土)～6月25日(日)
- ② 参加者：5名
- ③ 場所：世田谷区立野毛青少年交流センター
- ④ 内容：プレゼンや企画づくりのトレーニングを行い、年間を通して活動していくスキルを身に付けるとともに、グループとしてのゴールを議論した。

- (3) おいでよ都会のうみ～護波(ごみ)アートを作ろう

- ① 開催日：2017年11月12日(日)

- ② 参加者：11 名
- ③ 場 所：豊洲運河付近
- ④ 協 力：特定非営利活動法人あそんで学ぶ環境と科学倶楽部
- ⑤ 内 容：ボランティア未経験の学生に一步を踏み出させるため、ごみ拾いと集めたごみを材料としたアート制作ワークショップを行った。

(4) ながぐつを履いた学生の会

- ① 開催日：2018 年 1 月 12 日(金)
- ② 参加者：3 名
- ③ 場 所：Students BOX
- ④ 内 容：センターの行うチーム「ながぐつ」プロジェクト福島に参加した学生が、経験を振り返り、これからのボランティアへの関わり方を考えるワークショップを行った。

(5) ながぐつを履いた学生の会 vol.2

- ① 開催日：2018 年 3 月 22 日(木)
- ② 参加者：4 名
- ③ 場 所：センター会議室
- ④ 内 容：センターの行うチーム「ながぐつ」プロジェクト福島に参加した学生が、経験を振り返り、現地で感じた問題についてどう発信していくかを考えるワークショップを行った。

(6) ふくしま、いただきます！ 知らないなんて モッタイナイ！その魅力に迫る！

- ① 開催日：2018 年 3 月 26 日(月)
- ② 参加者：50 名
- ③ 場 所：3331 Arts Chiyoda
- ④ ゲ ス ト：湯澤 魁氏
(学生団体リプラボ／明治大学 学生) ※2018 年 3 月 26 日現在
菅野 智香氏
(高校生が伝えるふくしま食べる通信初代編集長／明治大学 学生)
※2018 年 3 月 26 日現在
上石 美咲氏
(ふくしま FM 伝えるラジオパーソナリティ／福島大学 学生)
※2018 年 3 月 26 日現在
- ⑤ 内 容：学生に福島県の風評被害を自分事として捉えてもらうため、福島県の食や原発をテーマに活動している学生のパネルディスカッション、福島県産食品の試食会を行った。

(7) 2018 年度インターン募集

- ① 募集期間：2018 年 1 月 9 日(火)～3 月 13 日(火)
- ② 募集定員：8 名
- ③ 応募人数：9 名
- ④ 採用人数：8 名
- ⑤ 対 象：インターン実施期間において、大学や大学院に在籍していること。
- ⑥ 選 考：応募者全員に対して、役職員による面接を実施した。
適性や性別、学年のバランスを考慮して採用を決定した。

6. 教育活動支援

本事業は、学生の成長や高等教育機関にとっての教育効果を重視し、協力協定を締結していない大学の教職員、学生らと、年間を通じてボランティアプログラムの協働開発を実施した。

(1) 聖心女子大学

以下の活動については、本大学よりプログラムの企画、実施に係る業務委託の依頼を受けたため、本事業にて実施した。

岩手県陸前高田市をフィールドとし、毎年 8 月 7 日に行われるうごく七夕祭り及び年明けに行われる秋葉権現川原獅子舞に、川原祭り組の一員として携わった。

① うごく七夕祭り

- ア. 活動日程：2017 年 8 月 6 日（日）～ 8 月 9 日（水）
- イ. 参 加 者：7 名
- ウ. 活動場所：岩手県陸前高田市
- エ. 内 容：うごく七夕祭り川原祭り組の山車引き、震災学習ツアー、
民泊体験

② 秋葉権現川原獅子舞

- ア. 活動日程：2018 年 1 月 5 日（金）～ 1 月 7 日（日）
- イ. 参 加 者：3 名
- ウ. 活動場所：岩手県陸前高田市
- エ. 内 容：獅子舞披露

IV. 【その他センターの目的達成に必要な事業】

1. 情報発信

ボランティアに興味・関心を寄せる学生たちがホームページへ訪れるよう、学生の利用頻度が高いスマートフォンでも閲覧しやすいホームページの開発に力を入れた。

2017年度は、全国展開に向け力を入れている大学等連携関連講座に関するページの改修や、昨年度企画・構築した「学生が毎日でもサイトを訪れるような仕組み」の運用、6月に実施した「全国学生1万人 ボランティアに関する意識調査」に関する特設ページの制作、設立からの活動記録に関するアーカイブ化等を行った。

これらにより、新規ユーザー率が昨年度の58.62%から60.43%へ上昇した。

また「学生ボランティア」という検索キーワードでは、競合であるNPO法人IVUSAやボランティア情報掲載サイトactivoを抑え、パソコン、スマートフォンからの検索が共に1位となっている。

(1) 全国学生1万人 ボランティアに関する意識調査

現在の学生たちがボランティアに対してどのような意識を持っているかを把握し、より良い事業・プログラム創出の基礎データとするべく、インターネットリサーチを使い、意識調査を行った。

調査の結果、ボランティアに興味はあるものの、実際の行動へ移せていない学生が、7割近く存在することや、ボランティア活動へ参加するきっかけになるという理由で、6割近くの学生が大学の授業としてボランティア関連科目を取り入れることに賛成であると判明した。

- ① 調査タイトル：全国学生1万人 ボランティアに関する意識調査 2017
- ② 調査対象：インターネットアンケートのモニター会員を母集団とする
全国の学生
- ③ 調査機関：2017年5月19日（金）～5月22日（月）
- ④ 調査方法：インターネットリサーチ
- ⑤ 調査地域：全国
- ⑥ 調査数：10,000名

別表 1

役 員 名 簿

(2018 年 3 月 31 日現在)

役 職	氏 名	現 職
代表理事 (会長)	小宮山 宏	株式会社三菱総合研究所 理事長
常務理事	小西 龍治	学校法人立命館立命館アジア太平洋大学 客員教授
〃	古川 秀雄	公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター
理 事	赤澤 清孝	大谷大学 准教授
〃	工藤 健夫	一般社団法人 SoLaBo 代表理事
〃	栗田 充治	亜細亜大学 学長
〃	小島 祥美	愛知淑徳大学 准教授
〃	西尾 雄志	近畿大学 准教授
〃	山口 健一	福山市立大学 准教授
〃	吉村 充功	日本文理大学 教授
〃	渡邊 一馬	一般社団法人ワカツク 代表理事
監 事	浅井 清澄	至誠清新監査法人 公認会計士
〃	鈴木 浩司	公益財団法人日本海事科学振興財団 常務理事

別表 2

評 議 員 名 簿

(2018 年 3 月 31 日現在)

氏 名	現 職
尾形 武寿	公益財団法人日本財団 理事長
清水 潔	弁護士
原田 勝広	明治学院大学 教授
松本 美奈	読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局
村上 公一	早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター長

別表 3

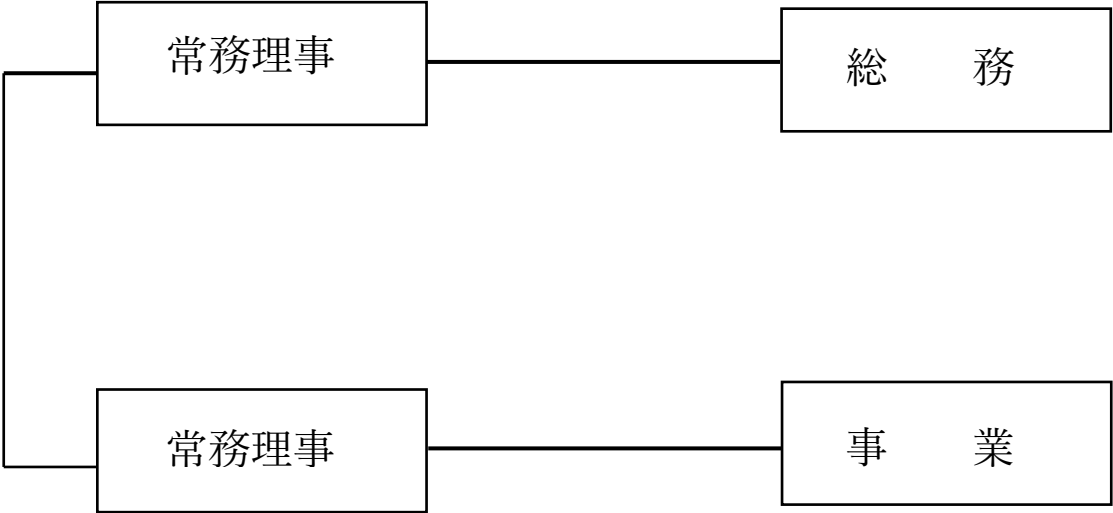
学 生 委 員 会 名 簿

(2017 年 5 月 23 日現在)

氏 名	現 職
今関 恭平	日本大学 4 年
桑山 千香子	愛知淑徳大学 2 年
タパ サキーラ	東洋大学大学院博士後期課程 3 年
都築 則彦	千葉大学 4 年
永田 久実	明治学院大学 3 年 Gakuvo インターン
山本 賢	東北大学 2 年

別表 4

事務局機構図



別表 5

第4回 Gakuvo Style Fund 審査委員名簿

(2017 年 7 月 30 日現在)

氏名	所属	肩書
天田 聖	独立行政法人国際協力機構	JICA 地球ひろば所長
杉山 恵理子	明治学院大学	ボランティアセンター長
谷口 浩一	ソニーマーケティング株式会社	広報・渉外部 総括部長
野沢 慎司	明治学院大学	副学長
古川 秀雄	公益財団法人 日本財団学生ボランティアセンター	常務理事

別表 6

インターン 名 簿

(2018 年 3 月 28 日現在)

氏 名	現 職	インターン開始日
小野 孝彰	中央大学 3 年	2017 年 4 月 8 日
近藤 常葉	首都大学東京 4 年	2017 年 4 月 8 日
鈴木 穂乃花	共立女子大学 2 年	2017 年 5 月 4 日
永田 久実	明治学院大学 3 年	2017 年 4 月 8 日
宮地 眞子	日本女子大学 3 年	2017 年 5 月 4 日

2017 年度事業報告 付属明細書

2017 年事業報告は、「一般社団法人及び一般財団法人法に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2018 年 5 月

公益財団法人
日本財団学生ボランティアセンター

前記のとおり相違ありません。

2018 年 5 月 23 日

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター

代表理事（会長） 小 宮 山 宏

2017 年度の事業報告書を監査したところ適正かつ正確であることを認めます。

監 事 浅 井 清 澄

監 事 鈴 木 浩 司

